

# 東西南北県人往来⑤

全国で活躍する県人の皆さんが集う各県人会の成り立ちや様子、あるいはふるさと徳島の懐かしの思い出などを、県人会ごとに自由に語っていただくコーナーです。

## 北の地でつながる阿波の絆

梶浦 孝純

札幌徳島県人会事務局長



北海道札幌市出身。両親が美馬市脇町出身。北海道学芸大学(現教育大学)を経て札幌市教職員として、40年間勤務。退職後、地域まちづくり活動に努めながら父の勤めで、県人会に入会し、事務局長を12年間歴任。

北の都、人口195万人の札幌市の北区に「あいの里」と呼ばれるところがあります。ここは明治14年、徳島県板野郡出身の滝本五郎氏が藍の生産にビジョンをかけて、入植したといわれています。北の空に北斗七星が冷たく煌めき、厳寒と積雪、そしてヒゲマ(今でも街中に出てきますが)の恐怖、バッタ大襲来の被害に怯えながら、泥炭地(草木が蓄積して、炭化した土壌)の雑草を切り払い、ねばり強い・阿波魂を発揮して、藍作と畑作の開墾に成功しました。現在、この地は近代的な住宅街とリゾート施設によって、大きく発展して

いますが、徳島のルーツをつなげる人達が歴史的価値を大切に守り、地域のまちづくりに徳島の相乗効果を取り入れながら活動し、相互の絆を固めています。

札幌徳島県人会は創立して、今年で55年目になります。時代の変遷とともに移住1世の会員が少なくなり、2世や3世の会員構成となったこともあって、一時、徳島に対する郷土意識が間接的で、県人会活動も今ひとつという状態がありました。ここ10年間位で、徳島との歴史的な連携の事実と業績、徳島の県民性の素晴らしさを交流活動や情報手段などから、だんだんと知ることによって北の地の徳島ルーツの存在を再認識し、県人会活動のあり方や推進に活気を出すようになってきました。毎年開催される「北海道・徳島交流のつど

い」での徳島と会員との交流・北海道阿波おどり振興会の阿波おどりの普及と拡大・徳島物産展札幌開催の誘致と実施・会報「北すだち」による情報の発信など、近代的な都市形成に取り組み札幌において、徳島の存在を認識させ、周知していくことに努めるようになってきています。このことは札幌開拓の先人の功績とパワーを大切に保持し、県人会会員の絆と誇りを北の地で輝かせていきたいと願っている。現れだと喜んでいきます。これからも「北の地に阿波は生き続けている」という信念をもって活動が活性化されることを期待しています。



徳島県上板町の藍畑

### Memo 札幌徳島県人会

札幌に在住する徳島同郷人数名が個人的な交流を重ねていくうちに意気投合、昭和31年2月12日、創立世話人代表・梶浦政信(今の事務局長の父)の名において県人会創立総会を開催、55年間、親睦と交流の歩みを続けてきている。現在の会長は第10代目で株式会社・昭和ビル相談役・札幌商工会議所常任議員の倭 昭三氏。県人会構成は会員31名と連携団体・北海道阿波おどり振興会(5連)、さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座によって成り立ち、徳島県との交流のつどい、阿波踊りや人形浄瑠璃のイベントへの取り組みや協力活動を進めている。



札幌徳島県人会 会長  
倭 昭三氏